

# 学生こそ時代の最先頭に!

- 獄中で意気高く闘う8人の学生たち -



斎藤郁真くん  
(法大・法2)  
文化連盟委員長  
無期停学被処分者  
4・24でっち上げ弾  
圧被告

合法と正当性は違う。国家すら、法律すら、所詮社会の一部である。法律は、社会の常識とはまた別のものである。

もちろん、尺度のひとつではあるが、何を善とし、何を悪とするかは、われわれ一人ひとりが判断しなければならない。権威に従うことも重要だが、ふざけていると思った権威に楯突くことはそれ以上に重要である。

学徒よ、ともに闘おう!

文化連盟はスジを通します。



恩田亮くん  
(法大・文3)  
文化連盟副委員長  
無期停学被処分者  
4・24でっち上げ弾圧  
- 暴処法弾圧被告

市場原理主義と教育は相容れるのか? 答えはNOである。新自由主義は大学を滅ぼし、権威を破壊し、人権を踏みにじる。法政大では逮捕者がのべ110人にのぼり、33人が起訴されている。

しかしこれは決して敗北ではない。法大闘争、そして新自由主義との闘いは、いま本格始動したのだ! おかしいことにおかしいと、一緒に声をあげようじゃないか。自由は与えられるものではなく、かちとるものなのだから。市場原理主義を、燃やして、壊して、ぶっ潰そうぜ!



織田陽介くん  
(東北大学)  
全学連委員長  
暴処法弾圧被告

大学はそして学生は、こんな時代にかくに生きるべきでしょうか? 未来を切り開くために教育はあり、古い価値観をぶち破る中に歴史の創造があります。その学生が、自由を掲げ

ては弾圧され、軍事研究や学徒動員に向かうなどということは絶対にあってはいけない。

法大の闘いは、仲間のために立ち上がり、大学とこの社会を創造していく学生が団結を取り戻す闘いです。戦争の問題も、自分が隣の仲間とどう生きるかという問題も、一つの問題です。学生は、仲間を大事にしなきゃいけない。団結して立ち上がれば、絶対にこの現実を変えることはできる。ともに声をあげましょう!

増井真琴くん  
(法大・文)

文化連盟企画局長

4・24でっち上げ弾圧  
- 暴処法弾圧被告



倉岡雅美さん  
(法大・人間環境3)

全学連副委員長

4・24でっち上げ弾圧  
被告



新井拓くん  
(法大・法)

07年4・27 - 08年5・  
28弾圧被告  
暴処法弾圧被告



内海佑一くん  
(法大・文)

退学被処分者  
08年5・29弾圧被告  
4・24でっち上げ弾圧  
- 暴処法弾圧被告

富山小太郎くん  
(京都大学)

全学連書記長

4・24でっち上げ弾圧  
被告



4月24日昼休み、教職員の「出るな」という規制も、阻止線をもぶち破って法大生が集会に合流、大集会に！これに恐怖した機動隊が学生を襲撃。(↓)

06年3月から3年間、警察権力と一体となって学生弾圧を繰り返す法大当局に対し、文化連盟と全学連は固い団結を打ち固め、真正面から闘ってきた。

そして今年4月24日、法大解放集会が1500人の学生でぶち抜かれ、法大当局のデタラメな支配は完全に破綻した。「二度と4・24があってはならない」- 恐怖した法大当局は、暴処法という治安法まで持ち出し、先頭で闘う学生12人を逮捕させ、今なお8人を獄中に奪っている。

学生の闘いこそ正義だ。8人を取り戻し、腐りきった大学を学生の手に取り戻そう！



# 戦争のための治安法 ＝「暴力行為等処罰法」

## 文化連盟・全学連つぶしを目的にした政治弾圧

5月15日から16日にかけて、法大生10人を含む11人の学生が、「暴力行為等処罰法」違反でデッチ上げ逮捕され、そのうちの5名が起訴されました。同時に、4月24日の法大集会に参加したことが「建造物侵入・威力業務妨害」にあたるとされ、デッチ上げ逮捕・起訴された学生を含めると、合計8人の学生が監獄に

拘束され続けています。

8人の学生たちの中心は、法政大学で学生自治の先頭にたち、学生の団結を守り抜くために闘っていた法大文化連盟と全学連の執行部です。学生の団結と闘う組織をつぶすことを目的にした政治弾圧であり絶対に許すことはできません。

## 団結そのものを罪に！ 戦前の治安維持法と一体

何よりも、この弾圧のために「暴力行為等処罰法」なるものが使われていることは歴史的な事態です。

暴処法は1926年に労働運動や部落解放運動の取り締まりのために成立し、前年にできた治安維持法と一体で戦争への道を開いていった法律です。「団体若は多衆の威力を示し...数人共同して...罪を犯したる者は3年以下の懲役又は30万円以下の罰金に処す」（暴処法第1条）と集団性を問題にし、罪とする。団結することそのものを罪とし弾圧するようなとんでもない法律が、戦後も存在し、法政大学の闘いの弾圧のために持ち出されたのです。絶対に許すわけにはいかない。

しかも、今回の事件は“当局の不当な看板が引き下ろされた”というものです。なぜこれに暴処法が適用されるのか。団結をつぶすための弾圧だからです。



大学当局の看板は、被処分者や学費未納で除籍になった学生の名前を入構禁止者として24時間門前に貼りだしてある許しがたいものだ。こんな看板は学生の怒りで撤去されて当然だ！

「当局の看板が引き下ろされた」から逮捕！  
不当な入構禁止看板など撤去されて当然だ！

# 大学で弾圧がまかり通るとき戦争が始まる

今回の弾圧は、戦前の京都学連事件を想起させるような歴史的イベントです。

学生の自由が奪われ、国家権力が大学を制圧するとき、それは歴史の教訓が示すように戦争の時代です。戦前は、最も批判精神に富み、自由であるべき教育の場が、最も弾圧の対象となり、自由が奪われていった。学校から戦争は始まっていったのです。だから学生弾圧を許すかどうかには未来がかかっています。

同時に、学生の闘いがあるかぎり戦争はできません。戦後の大学は、学生が先頭に立って学生自治をかちとり、「二度と戦争を繰り返さない」闘いを貫い



法政大での学徒出陣への壮行会（1943年10月）

てきました。そして法政大では、主体性・自由を奪う大学支配に対して、学生が一步も退かず闘ってきた。団結によって戦争の道を阻んできたのが法大の闘いです。ここに戦争を止める力と可能性があふれています。

## 京都学連事件とは？

戦前の大学における学生弾圧の始まりで、治安維持法が初めて適用された事件。1925年12月、京都府警察部特高課は、京都帝大・同志社大などの社会科学研究会会員の自宅を急襲、学生33名を検束した。大学当局の抗議もあり、一旦は釈放されたが、戦争への突入の中で特高は本格的弾圧に踏み込んでいく。その後、政府による社研禁止の通達が出され、学生の自由や闘いが奪われ、大学は軍事研究の砦となり、学徒動員に進んでいった。

## 法大当局によってつくられたキャンパス戒厳体制 軍部に制圧された戦前の大学と同じだ！



外濠校舎門前は閉鎖するために花壇が敷き詰められた

6月15日、正門前で開催された「暴処法」弾圧に抗議する集会の当日、キャンパス中央は封鎖され、正門は閉鎖され警察によって制圧された（写真左上）。学内は職員が徘徊し、窓から見る学生を排除し、屋上からは強制的に追い出し、大窓のブラインドは閉じられた。学生の主体性のすべてを奪う戒厳体制。軍部に制圧された戦前大学と同じ光景が広がった。

# 新自由主義大学と 対決する法大闘争

2006年3月14日 < 立て看板規制と大弾圧 > から始まった

2006年2月末、法大当局は突然「ビラ・立て看板規制」を発表。これまで学生が自主的に行ってきた表現活動を一方的に禁圧するものでした。

これに抗議して行われた3月14日のキャンパス集会に、私服警官が突入し、その場にいた29人全員を「建造物侵入・威力業務妨害」で逮捕したのです。大学周辺のデモから帰ってきたときに数十人の職員が看板撤去作業を開始し、ただちに警察が突入してくる。法大当局と公安警察が、計画を練り上げて、逮捕を自己目的化し、学生運動を潰すためにしくんだ



権力犯罪だったのです。

しかし、5人の法大生を先頭に全員が完全黙秘を貫き、不当弾圧を打ち破って奪還され、法大闘争は力強く開始されました。

## 3年間の不屈の闘いが大学を追い詰めてきた！

それ以来3年間、法大闘争は大学の暴力支配と徹底的に対決してきました。ビ

ラをまいたら停学。集会をしたら退学。大学に抗議をしたら逮捕。3年間で逮捕



者はのべ110人、起訴者は34人、処分者は11人。

学生が声を上げた瞬間に、大学当局が処分や逮捕をもって襲いかかる。

しかし、この暴力支配に一步も退かず、ただ学生の団結に依拠して、「一人の仲間も見捨てない！」と闘ってきたのが法大闘争です。

← 06年6 / 15のキャンパス1000人集会

## 学生看板は強制撤去、大学の不当な看板は出し放題

### この関係こそひっくり返さなければならない

今回の暴処法弾圧は当局の看板を下ろしたことが事件とされました。しかし、そもそも学生の立て看板は権力を使って強制的に撤去されてきた。他方で大学の看板はどんな不当なものでも出し放題。この関係はいったい何なのか！ 学生はそんな惨めな存在なのか！ この関係こそひっくり返さなければならない。

## 「営業権を侵害するな」!? これが大学か！

大学はこれまで「教育環境を守る」ことを建前にしてきました。しかし今年3月、ついに本音を言った。「大学の営業権を侵害するな！」と。そのために大学周辺200メートルでの情宣活動を禁止するという、とんでもない決定を裁判所に出させたのです。「営業権」=金儲けのためには、学生のビラ撒きや情宣活動は認めないということなのです。

資本と一体化し学生をとことん商品化して送り出す。学生から高い授業料をむしり取ったあげくに、その金はマネーゲームに使い、しかも28億円もの巨額の損失（09年3月期）を出している。

大学が金儲けの場になる、しかもそれに反対すれば暴力で襲いかかる。これのどこが教育機関なのか！ こんなあり方を認めるわけにはいかない。

## 教育の民営化粉碎！ 教育と未来を奪い返そう！

医療、介護、公共機関...あらゆる場を民営化して金儲けの場に変え、全世界で搾取・収奪の限りを尽くしてきた新自由主義。大学すらその論理で支配し、教育までも民営化するにいたったのが法大の現実です。だからこそ、この新自由主義の支配をうちやぶってきた法大闘争には

未来を切り開く力があります。

未来をつくるはずの教育を金儲けに変えて徹底的に破壊する、そんな社会はもう終わっています。学生の未来を奪うな！ 社会の未来を奪うな！ 教育の民営化を粉碎し、学生の団結した力で、学生の手で教育と未来を奪い返そう！

## 全国大学で教育の民営化をめぐる大決戦が始まっている！

京都大学などが国立大では初めて財界団体（関西経済連合会）に加盟。京大生が弾劾の学内デモにたった。

富山大学では、学生寮である新樹寮を財界主導で「改修」し、その過程で寮自治を解体することが狙われている。入寮募集停止強行、闘う学生のたたき出しに対して、新樹寮生先頭に闘っている（写真は5/31全国集会）。



# 戦争・民営化を阻止し 未来を切り開く歴史的闘い

「教育の民営化」を粉碎し、戦争を阻止する最前線の闘いこそ法大闘争です。

6月15日には「法大弾圧粉碎！ 労学総決起集会」が闘われ、労働者の大部隊が年休をとって法大にかけつけました。新自由主義支配を打ち破る法大闘争こそ、全国の労働者にとって未来をかけた歴史的闘いです。



「教育の民営化」粉碎！ - 総長室へ怒りのデモ!! (4 / 24)

6 / 14 渋谷

全国から2100人が結集。法大・洞口さんが熱烈な訴え。

労学連帯の力で  
法大弾圧粉碎しよう！



6 / 15 法大

労働者学生1200人が結集。正門前を埋め尽くした。

## 6・14 - 15集会をよびかけた 動労千葉・田中委員長のアピール



「新自由主義攻撃がどれほど労働者をひどい状態においたのか。その象徴が法政大学のこの現状だと思います。学ぶということ、人間

が人間として生きていくために真実を求める人間の本質を金もうけの道具にした。怒りの声があがるのが当たり前です。そこに発動されるのがむき出しの国家権力、これが法政大学の現実です。新自由主義が生み出した典型的で暴力的な姿がここにある。

こうした現実に対して、労働者は社会の主人公である、歴史をつくる主体だと団結して立ち上がることです。その先頭に学生たちは立ってくれている。だから僕らは連帯します」

# <全国300万学生の反乱で、 オバマと麻生打倒しよう!>

昨秋以来の大恐慌の爆発で、資本主義の寿命はもう尽きています。労働者を食わせられず、教育も大学も破壊するような資本家支配に何の展望もありません。労働者・学生が団結し、奪われたものすべてを奪い返して社会の主人公になる時代がやってきた！

世界最大の自動車企業・GMの破産を見てください。サブプライムローンというバブルの虚構がはじけた惨状を見てください。資本の論理が横行し、労働者をモノのように使い捨てる大量解雇攻撃が始まっています。新自由主義とは戦争攻撃です。新自由主義とは民営化攻撃です。労働者から職も住居も誇りも奪い、学生から教育と自由を奪い、そして戦争で命まで奪っていくようなあり方は、根底からぶち壊されなければなりません。

オバマと麻生の戦争突入を絶対に阻止しよう！帝国主義は市場と資源と勢力圏を求めて、イラク・アフガン(パキスタン)に続いてさらなる戦争を構えています。麻生は改憲を狙い、道州制・民営化によって労働組合をつぶし、労働者の団結と闘いを破壊しようとしている。そして大学から自由が奪われた時、戦争が始まるというのが「歴史の教訓」ではないですか。法政大の闘いはこの戦争への流れに真っ正面から立ちはだかり、ぶっ止めている歴史的闘いになろうとしています。

全世界の労働者・学生が「戦争止める！民営化阻止！」で続々闘いに立ち上がっています。全国学生は今こそたとう！

## 許せぬオバマの戦争宣言

米大統領・オバマはチェコ・プラハでの演説(4月)で核独占と戦争を宣言。

「アメリカは安全で、確実に、効果的な核兵器備蓄を維持する」、「(北朝鮮の)違反は罰せられなければならない」とし、ブッシュと同じくイランや北朝鮮に対しての軍事力行使(侵略戦争突入)の姿勢を鮮明にした。

麻生はこれに応え、「北朝鮮に対しわれわれは闘うべき時は闘わなければならない！」(6月)と叫んで、改憲・戦争への突入の意思をむき出しに。



工場を暴力占拠して解雇攻撃と闘う、  
韓国・双竜自動車の労働者(今年6月)



# 文化連盟への 不当処分を許さない！

不起訴釈放で停学 1 ヶ月!?

団結をつぶすための「暴処法」処分だ！

不起訴で釈放された文化連盟の学生 A 君に対して、6月19日付で停学 1 ヶ月の処分が強行されました。処分理由は逮捕理由と一緒に、「その場にいた」「逮捕された」から処分だということです。実行行為ではなく団結を罪とする「暴処法」とまったく同じ。まさに「暴処法」処分で

す。本人の不屈の闘いと巨大な反撃で、国家権力による暴処法弾圧が打ち破られたら、今度は大学が処分する。“文化連盟をたたき出す”“団結をつぶす” - そのためになりふり構わず強行されたのが、今回の弾圧であり処分です。絶対に許すことはできません。

洞口さんへの停学 3 ヶ月処分弾劾！

「私たちは仲間を絶対に裏切っちゃいけない。それが法大闘争の核心です。団結を奪われたら戦争です。戦争を止め、この社会を根本的に変革する道は、資本家と徹底的に闘い、奪われてきた団結を取り戻していく闘いの中にこそあります。

新自由主義は日に日に崩壊しています。絶対に勝てます。正義は私たちにある。私は『処分阻止』の闘いでこれからもキャンパスに立ち続けます」（6 / 14集会での発言）



洞口朋子さん（法大経済学部 1 年、文化連盟）。暴処法弾圧で不当逮捕されたが、6月5日不起訴釈放をかちとった。彼女に対して7月14日、停学 3 ヶ月の処分が強行された。



処分こそ大学の支配の破綻であり、最後の手段です。文化連盟は処分絶対反対を貫いて、団結を守り拡大してきました。処分を粉碎したときに、大学を学生の手に取り戻すことができる。絶対に洞口さんら文連の仲間への処分を阻止しよう！

# 世界に広がる注目と連帯



## ← ジャパン・タイムズ紙が 法大闘争を報道 (6 / 9)

「キャンパス騒動」と題した特集記事が掲載され、「東京の有名大学が政治的表現の自由をめぐる戦場になっている。違法な逮捕、強制退学、公安警察による誘拐まがいの行為、大学当局が雇ったガードマンによる殴打——これは開発途上の軍事独裁政権の話ではない。東京・市ヶ谷にある名門法政大学の閑静なメインキャンパスでの話だ」などと報じられた。



## 独メディアが連帯行動 の呼びかけ (6 / 17) →

ドイツのインターネット新聞『Linke Zeitung』(「左翼新聞」)が法大闘争を大きく取り上げ、読者に法政大学への抗議

のメール、学生への激励メールなどをよびかけた。

## アメリカの教育労働者と学生から海を越え激励のメッセージ



州当局による約4000人の教員解雇計画に対して、20年ぶりの全日ストにたったUTLA (5 / 15)

UTLA (ロサンゼルス統一教組) 内のCAMS (校内における軍国主義に反対する連合) の教育労働者から激励のメールが送られてきた。大学生や高校生からもメッセージが届いている。UTLAは「教育の民営化」による大量解雇攻撃とストライキで闘っている。